

## Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第8回

## 静岡大学の活動報告



袴田麻里(国際交流  
センター准教授)

アジアとのブリッジ人材育成の  
ための高校生招聘

静岡大学では、日本企業が多く進出して  
いるインドネシア、タイ、ベトナム、  
インドから直接学部1年生として  
入学するプログラム(アジアブリッジ  
プログラム (ABP)、<http://www.abp.csu.shizuoka.ac.jp/eng/>)を平成  
27年10月より開始する。アジア地域か  
ら優秀な留学生を受入れ、母国の産業  
の発展に貢献できる技術力を身に付け  
させること、海外進出している日本企  
業に必要な人材に育成することを目的  
とするプログラムである。静岡大学は、  
留学生を受入れて教育する体制を整え、  
地域と一体となって生活面、経済的な  
支援を行う。さくらサイエンスプラン  
では、ABP開始に先立ち、招聘する高校生  
が工学部、情報学部、農学部、理学部、教育  
学部(理系)における勉学・研究を知って日  
本の科学技術に関心を持ち、自身の将来の進  
路につ

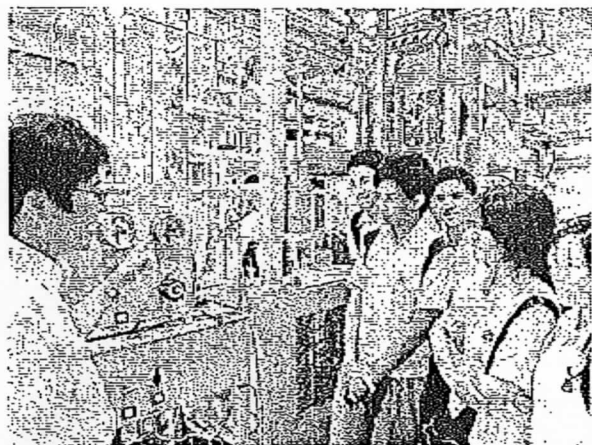
## プログラム

1日目	来日
2日目	静岡大学国際交流センター長訪問 静岡大学農学部・教育学部研究室見学
3日目	静岡大学学生と交流(静岡市安倍川花火大会)
4日目	浜松科学館訪問 浜松市内観光
5日目	浜松市役所訪問 静岡大学工学部研究室見学
6日目	県立浜松工業高校訪問 静岡大学情報学部研究室見学
7日目	SUZUKI訪問 高柳記念未来技術創造館見学、浜松インドネシア友好協会と懇親会
8日目	次世代ものづくり人材育成センター見学
9日目	帰国

## 国際交流センター長表敬



路につ  
いて考  
える機  
会を提  
供し、  
近い将  
来、静  
岡大学  
への留  
学を強  
く動機  
付ける  
ことを  
目的と  
して実  
施した。  
招聘  
したビ  
ンヌ  
インタ  
ーナシ  
ョナル  
スクール  
セルポン  
校(BINUS  
INTERNATIONAL SCHOOL Serpong、以  
下BINUS)はBanten州のトップ校である。  
特に理系教育に力を入れており、設備の整っ  
た実験室を備え物理、生物、化学の実験・実  
習をカリキュラムに組み込んでいる。同校は  
外国人が教職員の半数を占め、海外留学を志  
す生徒が多い。静岡大学へは、平成22年度、  
平成24年度、平成25年度、平成26年度に工学  
部にそれぞれ1名ずつ入学実績がある。招聘  
学生は、BINUSで実験や実習に積極的に  
取り組み、日本の理系学部(工学部、情報学  
部、農学部、理学部)への進学に関心を持つ  
生徒10名を選抜した。  
平成27年度から開始のABPに関心を持つ  
てもらうため、複数の研究室訪問を通して静  
岡大学の教員・学生と交流し、静岡大学での  
大学生活を多面的にイメージできるよう工夫  
した。訪問した研究室では、インドネシア人  
留学生が案内、説明をしたことにより、招  
聘した高校生によいロールモデルを示すこと  
ができ、高校生から多くの質問が飛び出した。  
また、日本人学生と留学生が協力して研究し  
ていること、インドネシアと深い関わりがあ



工学部研究室を見学



農学部研究室を訪問



友好協会との懇親会



「スズキ」を見学

ベルの理解が目的である。海外の高校生、保護者は世界の大学ランキングを注視しているが、日本の場合、国立大学であれどどの地域に立地しているというよりも、その学問レベルに大きな格差はない。しかし、この事実がなかなか理解されないのが現状である。この事実を実感してもらうためには、研究室訪問、教員や学生との交流が最も有効であろう。地域と連携して海外の高校生を大学に招き、日本への留学を考える機会を提供していきたいと考えます。

る研究が進められていることを紹介することができた。  
10名という少人数での訪問であったため、静岡大学の教員、学生と親しく言葉を交わしながら研究内容の紹介を受けることができ、静岡大学が進学先として有望であることを高校生に印象づけられた。ただ、招聘した高校生は、まだ興味の対象が絞りきれておらず、彼らの関心に完全に合致した分野の研究室訪問計画を立てることができなかったのが反省点である。一方で、訪問を受けた研究室では、BINSUSの生徒たちの勉学意欲の高さと優秀さを目の当たりにし、海外の高校に対する関心を高められたことが大きな成果である。  
留学において大学での勉学は重要だが、地域で一市民として過ごす時間も同じぐらい重要である。浜松市は、ホンダ、ヤマハ、スズキ、河合楽器、ローランドなど、世界企業の発祥の地であり拠点である。スズキ歴史館、高柳記念未来技術創造館は英語での解説により展示内容をよく理解することができた。イ

ンドネシアは、日本の電気製品が多く出回っており、またスズキの海外生産拠点国でもあるので、大学での研究内容がどのように産業に貢献するか高校生は高い関心を持って展示を見学した。  
また、浜松インドネシア友好協会との懇親会によって、高校生は浜松市とインドネシアが良好な関係を保っていること、インドネシア人が地域に温かく受け入れられることを実感したようだ。引率の教育担当副校長が地域も留学生の受入れに前向きであることを生徒とともに理解してもらえたことは、日本への留学を考える大きな要素となったと思われる。  
静岡大学は、ABPによる留学生の受入れを通じて、日本人学生の国際化を図り、ひいては静岡大学全体、静岡県が国際化に貢献したいと考えている。今後、日本留学の動機づけに、海外の高校1年生、2年生対象のショートプログラムを定期的に実施していきたい。気候や食生活など実際に生活できるかどうかの体験、静岡大学における勉学内容や研究レ